

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 国際学院中学校高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒 362 - 0806
埼玉県北足立郡伊奈町小室10474
E-mail kghs@kgef.ac.jp
Website http://jsh.kgef.ac.jp
幼児児童生徒数 男子 530 名 女子 321 名 合計 854 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月（見込み）

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(記入例)

当校は、「グローバル・リーダーの育成」を活動テーマとして、国際理解教育に取り組み、ESDをグローバル社会が抱える諸問題について関心を持ち、自らの行動によって問題を解決しようとする世界で活躍する人材の育成を目標とした。

具体的には、国際理解教育を柱に、①学校設定科目「海外研究」に係わる活動、②海外学校との交流に係わる活動、③ユネスコ部を主体とする活動、④学校外での活動の活動を行った。

① 学校設定科目「海外研究」に関わる活動

高校の海外研修旅行で訪れるカナダは多民族国家であり、様々な人種・民族が生活している。異文化学習会はその事前学習として位置づけである。異文化学習会では県内に在住する様々な国・地域の方を講師に招き、その国の特徴や文化について講義を受け、体験学習を行う。また、食物調理コースの生徒は料理学習会を行い、その成果を文化祭で発表することによって、地域の方々にも世界の豊かな食文化について知るきっかけを提供している。



② 海外学校との交流に係わる活動

海外のユネスコスクールとしての交流としては、インターナショナル・フレンドシップ・ウィーク（以下 I F W と略す）を開催することが出来た。グローバルな視野で物事を考えることができる能力や、主体性やリーダー性を育成することを目的とした研修活動で本校は 2012 年にこの活動に参加している。日本国内で初めて本校がホスト校として 7 カ国 7 校 49 人の生徒や教員が参加した。

また、台湾との交流を継続して行い中学校が台湾を訪問し、台湾からの修学旅行の受け入れを 2 校行った。



③ ユネスコ部を主体とする活動

ユネスコ部では、ユニクロの服のちからプロジェクトに長期にわたって参加している。次年度も引き続き参加し、さらに多くの協力を得ることができるようになりたい。また、年度末であるが、3月30日～31日まで京都で合宿を行い、近畿日本ツーリストが主催するグローバルコミュニケーションプログラムに参加し、国際交流を行う予定である。



④ 学校外での活動

海外との学校交流を埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会に加盟しており、今年度は、E S D 推進室主任の島田が訪台教育旅行誘致事業に参加し、台湾に出張し、学校間交流の可能性を探った。また、2017 年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会の分科会にて、本校のユネスコスクールの活動と課題、ユネスコ協会との連携の在り方などについて報告した。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では高等学校第2学年において「海外研究」という学校設定科目を設置しており、海外研修・語学研修を主眼におき、異文化理解など国際交流を前提とした教育課程を編成している。この「海外研究」はすべての生徒に原則履修科目としている。英語科や地歴・公民科を中心に各教科が作成する生徒配布用のシラバスにおいて、ESD に関する学習内容についてその内容を記載し、生徒に周知している。また、高等学校総合学科の「産業社会と人間」においてはユネスコスクール・ESD についての学習時間を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールの活動を運営する教員の校務分掌として ESD 推進室、生徒側の運営主体としてユネスコ部を設置している。
英語科や地歴・公民科を中心に各教科が作成する生徒配布用のシラバスにおいて、ESD に関する学習内容についてその内容を記載し、生徒に周知している。また、高等学校総合学科の「産業社会と人間」においてはユネスコスクール・ESD についての学習時間を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末の2月に学校関係者評価委員会・第3者評価委員会において年度ごとの ESD 活動についてまとめている。
以下のような課題を提言してもらった。海外研修やユネスコスクールとしての活動など、海外との交流を積極的に図っている。今後、10年、20年先を見据えた、海外交流のあり方を検討するべきである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

異文化学習会(スリランカ料理学習会)でスリランカの食文化について学び、調理方法を学習した。その成果を9月に行われた文化祭にて、調理・販売し、世界の食文化の多様性を地域に広めている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

関東ブロック・ユネスコ活動研究会にてESD推進室主任島田が報告を行った。11月に開催されたIFWでは上智大学短期学部の学生とともに活動を行った。上智大学短期学部の学生とは1月にパーム油に関する学習会を行うなど高大連携事業を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

IFWでは、海外のユネスコスクールとの交流を行うことが出来、日本で初めて開催されたIFWは好評を得ることができた。その成果によって多くの国々から次年度以降本校生徒・教員が招かれることが期待される。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

本校に入学する生徒は、自分の能力や将来に不安を持つ者が多いが、国際交流を通して、一人ひとりが課題を発見し、将来をよりよく変えられる貴重な人材であることを実感し、国際交流に主体的に関わるため、英語を初めとする学習にも力を入れることができている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

第2学年での「海外研究」に関する活動は本校の伝統的な行事となっており、継続して行いたい。ESDに関する講演会も年間の回数を増やしていく予定である。

第1学年では、ユネスコスクールについての説明会。ESDに関する講演会を実施する予定である。

海外学校との交流

マレーシア国際交流研修 3月28日~4月1日

オーストラリア海外研修 8月

イタリアで開催されるIFWへの生徒派遣9月

インドネシア来校10月

香港で開催されるIFWへの生徒派遣11月

ユネスコ部

ユニクロ服のチカラプロジェクトへの参加

志賀高原ユネスコエコパーク環境学習プログラムへの参加8月